

## 令和7年度 授業評価結果

### 1 授業評価の目的と取り組みの経過

千葉県立野田看護専門学校では、教育の質の向上を図るため「授業評価」を実施している。授業評価は、非常勤講師および専任教員が実施した授業について、学生からの授業評価結果を基に教育水準の維持・向上や創意工夫ある教育の追求を行い、教育の質の向上に反映させることを目的としている。

本校では平成21年度から授業評価に取り組んでいる。平成28年4月1日から、現行の評価項目（非常勤講師6項目、専任教員9項目）に対して、4段階の評価尺度（とてもそう思う・まあまあそう思う・あまりそう思わない・全くそう思わない）で実施している。学生には、授業終了後に授業評価の目的や個人情報保護等に関する説明を行い、回答を求めている。

令和4年度から電子ネットワークシステムを導入し、評価票配布・回答収集・集計をすべて電子化した。さらに、令和6年度からは回収率向上のため、Wi-Fiを時間指定で開放している。

評価結果は、専任教員にフィードバックされ、授業改善に役立てられている。また、年度末には総合的な評価を行い、次年度の課題の明確化とカリキュラムの改善に活用している。結果の公表にあたっては、学生・非常勤講師・専任教員に対して倫理的配慮の説明を行い、学校内掲示およびホームページ上で公表している。

### 2 令和6年度授業評価の課題に対する令和7年度の主な取り組み

#### 1) 授業評価設問内容の検討

- (1) 他校の授業評価設問内容の情報収集
- (2) 非常勤講師、専任教員の設問項目の統一化の検討
- (3) 評価尺度の検討（4段階から5段階へ）

#### 2) 回収率向上に向けての検討

- (1) 授業評価に関するアンケートの実施
  - ・1年生を除く85名が対象、回収率97.6%
- (2) 授業評価の目的と協力依頼の説明内容の統一化
  - ・授業評価実施に関する実施方法に関するマニュアル作成
- (3) 回答しやすい環境整備の継続（Wi-Fi）

### 3 授業評価集計結果

令和7年度の授業評価結果は、昨年度に引き続き一部リモート授業を含めた結果となっている。臨地実習の評価についても、一部学内実習を含んだ結果である。

### 1) 非常勤講師（両学科）の授業評価

評価項目	R7 平均値	R6 平均値
1. この授業はシラバスに沿って行われていた。	3.5	3.5
2. 授業内容は適切であった。	3.5	3.4
3. 授業方法は適切であった。	3.5	3.4
4. 学生を尊重した対応であった。	3.4	3.4
5. 総合的にこの授業に満足できた。	3.4	3.4
6. あなた自身はこの授業に積極的に参加できた。	3.5	3.5
総平均値	3.4	3.4
平均回収率	37.0%	59.2%

### 2) 専任教員（両学科）の授業評価

評価項目	R7 平均値	R6 平均値
1. 教育理念・教育目標との一貫性があった。	3.7	3.6
2. この授業は授業計画（シラバス・時間数）に沿って行われていた。	3.7	3.6
3. この授業の学習内容やレベルや量は適切であった。	3.6	3.5
4. 事例や課題は思考を深めるために役立った。	3.6	3.6
5. 授業の進行や時間配分は適切であった。	3.5	3.5
6. 学生の質問や意見を尊重し、反応や理解度に合わせて対応した。	3.6	3.5
7. 内容を理解し、学習目標を達成できた。	3.6	3.5
8. この授業に積極的に参加できた。	3.6	3.6
9. 総合的にこの授業は満足できた。	3.6	3.5
総平均値	3.6	3.5
平均回収率	45.0%	47.9%

### 3) 臨地実習（両学科）の授業評価

評価項目		R7 平均値	R6 平均値
I. 自身の実習への取り組み	1. 患者、家族や医療スタッフ、実習指導者との関係を築きながら実習を展開できた。	3.6	3.5
	2. 日々の学習を振り返り、積み重ねながら学習できた。	3.6	3.5
	3. ビジョンゴールに向かい、自分を高める努力をした。	3.6	3.5
	4. グループメンバー間で協力をしながら互いに高めあうことができた。	3.7	3.6
II. ツールをうまく活用できたか	5. 実習目標を達成するために必要な学習体験ができた。	3.6	3.6
	6. 実習を進めるうえで、ループリック・ポートフォリオリフレクションノートを活用できた。	3.5	3.4
	7. オリエンテーションの内容は、実習を円滑に行うために役立った（実習オリ、病棟オリなど）。	3.6	3.5
IV. 教員のかかわり	8. 自ら考え行動するための支援が得られた。	3.6	3.5
	9. 行動や態度から看護者としてのあり方を学べた。	3.6	3.5
IV. 指導者のかかわり	10. 自ら考え行動するための支援が得られた。	3.6	3.5
	11. 行動や態度から看護者としてのあり方を学べた。	3.6	3.6
V. 実習環境	12. 学生のための環境（物品・資料・場所）は確保されていた。	3.7	3.6
	13. 実習しやすい環境（人的）だった。	3.6	3.5
VI. 総合評価	14. 全体として、充実した実習だった。	3.6	3.5
総平均値		3.6	3.5
平均回収率		80.0%	73.7%

### 4 まとめ

授業評価設問項目における評価尺度の5段階評価と4段階評価のメリットとデメリットを検討した結果、5段階評価では中央値バイアスが生じやすく、具体的な改善点が把握しにくいこと、また評価者の主観によるばらつきが大きくなることが確認された。これらの理由から、引き続き4段階評価を継続することとした。

非常勤講師・専任教員・臨地実習の総平均値はいずれも3.4以上であり、概ね学生の学習目標は達成されていると考えられる。特に専任教員の授業評価は3.5点以上の高水準を維持しており、授業改善への積極的な姿勢や学生との関わり、信頼関係の構築が評価に反映されていると推察される。一方で、非常勤講師の回収率が低く、結果の信頼性が統計的に十分とは言えない。授業改善の基礎データとして活用するためには、40～50%以上の回収率が望ましいとされており、今後の改善が必要である。また、講義中に学生の反応を確認しながら授業を進められるよう、非常勤講師との調整も継続して行う。

回収率向上のため、昨年度に引き続きWi-Fi開放による回答時間の確保を行ったが、全体としては昨年度より大きく低下した。回収率は最低2%から最高100%と格差が大きく、授業評価アンケートでは「評価しても反映されない」という学生の声もみられた。この点は回収率低下の一因と考えられる。学生へのフィードバックは信頼関係の構築に不可欠であり、リアルタイムでの授業改善や双方の意見交換を通じて、学生の満足度向上につながると考えられる。授業評価は学校への採点ではなく、学生自身の学びを深め、教育環境をより良くするための権利である

ことを周知していく必要がある。また、個人情報保護に関する理解不足や、学生数の減少・背景の多様化により、評価項目の理解や捉え方に個人差が生じている可能性も考えられる。

臨地実習の授業評価において回収率が高い要因としては、患者との関わりや看護技術の体験を通じて評価項目が理解しやすく、学生が評価に積極的になりやすいことが挙げられる。

今後は、授業評価アンケートの結果を踏まえ、学生が回答しやすい評価項目の見直しや、回収率向上に向けた具体的な対策を検討していく。

## 5 次年度の課題

- 1) 授業評価設問内容の検討
- 2) 回収率向上に向けての検討
  - ①アンケート目的と協力依頼の実施
  - ②アンケートが実施しやすい環境の整備 (Wi-Fi)
- 3) 評価結果のフィードバックの充実